

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

<https://takasaki.gunma-unesco.com>

UST

発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027)321-1297



串田会長挨拶

高崎ユネスコ協会は、少年少女合唱団のユネスコの歌で始まる対面通常総会を開催し、議事（コロナ禍前同様）にご賛同、世開してます。その基軸は、世界の平和・世界の国々の理解と協調を願う国際感覚を身につけています。その基軸は、世界の健全育成、具体的には、「持続可能な社会の実現に向けた担い手となる」「持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献する」ことのできる青少年を育てる取組であります。役員一同は、不易と流行に視点をあてた下記の事業で具現化を図っています。

2、流行の事業への取組

(1) 第3回国際理解展示会（P4参照）（日ユ協連SDGs助成事業）には、目的「Peace for Tomorrow（広げよう平和の心）」達成のため、会員が海外駐在や研修・観光で体験した国の歴史・文化・慣習等を伝えること・手に入れれた貴重な特産品や珍しい民族衣装などを展示すること・民族楽器を演奏すること等を行い、参

加した小中学生や市民とそれを共有しました。活動の充実や継続のため子どもや市民へのさらなる啓発を考えています。



総会後アトラクション尺八-松本肇氏



総会4年ぶりのオープニング：高崎少年少女合唱団

コロナ禍3年間を経て
活動が戻つてきました上半期
(4月～9月) 活動
不^レ易と流行に視点をあてゝ
会長 串田 昭光

1、不易の事業への取組

第42回国際理解バス（P2～P4参照）は、3年間の空白を

経て8月24日に実施できました。

1

、
キヤンプ代替事業

は、2年間

応募者足らずで流れました。今

年は、標記の名称で下仁田ジオ

パーク散策とコンニャク作り体

験を11月に計画しました。将来

的には、高ユ協・スタディツア

ーへの思いがあります。

(2) 第一回野外体験活動（青少年キャンプ代替事業）は、2年間の重い思いがあります。

年は、標記の名称で下仁田ジオパーク散策とコンニャク作り体験を11月に計画しました。将来的には、高ユ協・スタディツアーレベルの活動になります。

を共有しました。活動の充実や継続のため子どもや市民へのさらなる啓発を考えています。

令和5年度今後の予定

11月 12日(日)	青少年キャンプ代替野外活動 「発見・体験 下仁田ウォーキング」	下仁田町
11月 25日(土)	第43回子どもの幸せを考える研究集会 講師 糸井丈之氏	市民活動センター・ソシアス
12月 17日(日)	第51回児童画・作文入賞者 合同表彰式	文化会館 大ホール
1月～2月	「書きそんじハガキ」キャンペーン	



古着売り場は大盛況

ス 第
フ プ 35 回
エ リ 回
ス ソ た
テ グ か
& ビ サ
ザ バ キ
ル

毎年4月29日（土・祝）—昭和の日」に開催されています高崎市街地の春を告げる催しに、4年ぶりに参加いたしました。

ふと考ふでいいます。今回は品数も少なく、会員の皆様へのPRも不足しておりました。事前の告知にも創意工夫をしていかなくてはなりません。今後は毎年の開催を考慮してできるだけ多くの皆様にバザー用品の提供を期待しています。事前に連絡していただければ受け取りに参ります。今年は天候にも恵まれて、大勢の方々が立ち寄り、久々に人々が行き交う光景が見られなぜかほつといだしました。普通に、行事や活動が自由にできることのすばしさを感じました。参加された役員の皆さん、ご支援いただいた方々に感謝、

をして午後3時までの間バザー用品の売り込みをいたしました。幸いに、衣類全般、雑貨類（日用品・お皿・コップ・小物等）、雑誌・漫画類、パンジー・デイジー等の花々の鉢がほぼ完売できましたが、どうしても売れ残りは出ます。

そして、温かなご淨財は災害募金とともに今後のユネスコ活動に生かしていきます。有難うございました。



4年ぶりに全員集合

第42回 国際理解バス総括

国際理解バス部長 中島千恵美
8月24日、市内の小中学校から応募で選ばれた36名と共にメキシコ大使館とJICA地球ひろばへ向けて出発。この理解バスは高崎ユネスコ協会員が児童生徒を県外へ引率する唯一の事業であり、今回で42回を数えます。事業の特徴として、参加者自身が目的を持ち自主的に学習することが挙げられ、協会員はその支援をします。

7月16日、第42回高崎ユネスコ国際理解バスの『参加者

そう、ここから国際理解

ました。3年の間をあげての事業です。事前学習・準備会であるこの会は、指導者と参加者親子の出席のもとに入念に計画されました。

の事業に携わる高嶋工務店の協会の引率指導者たちは、今年も成功裡に終わりそうだ」と期待します。そして、

當日の様子

詳しくお知り

一美

副会長
上田

『親子のつどい』で 始 動

今後も国際理解バスを続けていき事業内容の向上発展を目指したいと思っています。

A simple line drawing of a woman with short grey hair hugging a smaller girl with dark hair. The woman has a gentle expression and small heart shapes above her head. The girl is looking up at her.

表情は真剣です。活動場面での役割分担決めもスムーズに進行しました。実際のバスは8月24日の発車ですが、児童生徒の皆さんはもう理解バスの内容に思いを馳せて、乗車しているかのようですね。



サボテンの歓迎（メキシコ大使館）

用意したり、メキシコ大使館の方からの高崎についての質問に答えられるような話題を入れたりして、終始リラックスできるよう進めました。児童生徒のコミュニケーション力は素晴らしく、車中の声量で打ち解けている様子がわかりました。

午前中の訪問先メキシコ大使館は、広い庭のたくさんの団扇サボテンに迎えられ、レセプションルームで政治部から英語と日本語でメキシコと日本の友好をプレゼンされ（概略は通訳あり）、その後たくさんの質疑応答。大使館からの要望もある文化交流には館員が7名も参加。空手や剣道に興味津々で見入ったり、プレゼントを手交したりしました。「ハイビスカスジュース」も思い出になりました。



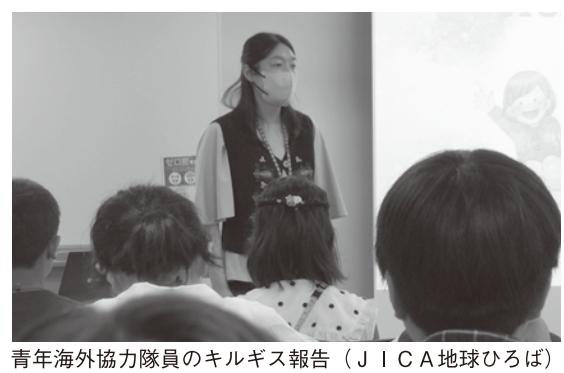
昼食はエスニック弁当 (JICA地球ひろば)

英語でお話を伺い、私の好きな映画リメンバー・ミーの舞台になつてお祭り、「死者の日」について深く知ることができました。とてもいい経験をすることができました。

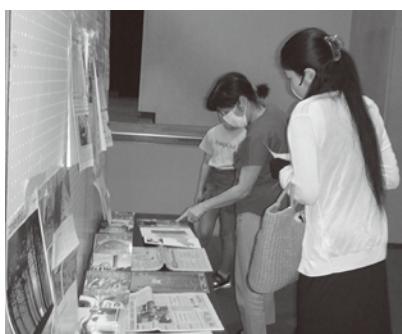
JICAでは昼食に、普段は絶対に食べることのなさそうな、ご飯を食べました。食べる前は、口に合うかな?と不安でしたが、一口食べるとしてもおいしかったです。

また、キルギスについてのお話を伺いました。青年海外協力隊のことは、名前しか知らないのですが、お話を伺い、青年海外協力隊のすばらしさを感じました。お話を伺うことでもか聞けない、発展途上国の現状を知ることができました。日本に生まれ、日々暮らしていることを、当たり前のように暮らし

ていましたが、海外では、自分たのことを知り、とてもびっくりしました。地球ひろばにいる水と同じ重さのバケツを持たせていただきましたが、とても重くて、毎日これを何回も運ぶなんて、私にはできないなと思いました。実際にその国に行つた人のお話を伺うことで、ようやく发展途上国の人に向けて、寄付などの支援をしたいと思いました。貴重な経験をさせていただき、参加してよかったです。



青年海外協力隊員のキルギス報告 (JICA地球ひろば)



鑑賞する3世代親子

展示会は国際理解バースの代替事業として始まり、3年目を迎えた。午前9時前から中央公民館集会ホールと視聴覚室にてスタッフと学生ボランティアで準備を開始。手慣れた展示配置はより美しくなった。午後3時に撤収とほぼ一日がかりの展示会だった。「いろいろな国の特徴や有名なものを知ることができます。海外では、自分で飲む水を遠くから運んでこないといけない、お風呂もたまにしか入れない人がたくさんいましたが、海外では、自分たちの国で、鳥がたくさんいるオーストラリアやニュージーランドに行きたいと思った。」「楽しかった!」と感想を書いてくれた入場者。また砂ばくの砂に触れていましたが、「ふかふかしてる」と五感で感じる国際理解を体験した子ども達もいた。入場者は約20名と広報方法と看板の大きさなどに反省を残したが、入場者の心に残る展示会となつた。

私は学生ボランティアとして集会ホールと視聴覚室にてスタッフと学生ボランティアで準備を開始。手慣れた展示配置はより美しくなった。午後3時に撤収とほぼ一日がかりの展示会だった。「いろいろな国の特徴や有名なものを知ることができます。海外では、自分で飲む水を遠くから運んでこないといけない、お風呂もたまにしか入れない人がたくさんいましたが、海外では、自分たちの国で、鳥がたくさんいるオーストラリアやニュージーランドに行きたいと思った。」「楽しかった!」と感想を書いてくれた入場者。また砂ばくの砂に触れていましたが、「ふかふかしてる」と五感で感じる国際理解を体験した子ども達もいた。入場者は約20名と広報方法と看板の大きさなどに反省を残したが、入場者の心に残る展示会となつた。

令和5年8月6日(日)国際理解展示会は国際理解バースの代替事業として始まり、3年目を迎えた。午前9時前から中央公民館集会ホールと視聴覚室にてスタッフと学生ボランティアで準備を開始。手慣れた展示配置はより美しくなった。午後3時に撤収とほぼ一日がかりの展示会だった。「いろいろな国の特徴や有名なものを知ることができます。海外では、自分で飲む水を遠くから運んでこないといけない、お風呂もたまにしか入れない人がたくさんいましたが、海外では、自分たちの国で、鳥がたくさんいるオーストラリアやニュージーランドに行きたいと思った。」「楽しかった!」と感想を書いてくれた入場者。また砂ばくの砂に触れていましたが、「ふかふかしてる」と五感で感じる国際理解を体験した子ども達もいた。入場者は約20名と広報方法と看板の大きさなどに反省を残したが、入場者の心に残る展示会となつた。

第3回国際理解展示会

参加協力してくれた大学生ボランティア5名へ感謝をしていきます。代表者はその感想を次のように語った。

高崎経済大学 地域政策学部3年 ボランティアサークルACT 代表 松本 正義

私は学生ボランティアとして国際理解展示会に2回参加させていただきました。国際理解展示会では、複数のブースが設けられ、そこで様々な国の伝統工芸品やその国の特徴についてまとめた資料が展示されていました。学生ボランティアとして国際理解展示会に参加させていただき感じたことは主に2つあります。

1つ目は、日本と他の国々の文化の違いの面白さです。国際理解展示会を通して様々な国との文化に触れることができました。各国の伝統工芸品や伝統文化に触れる機会はあまりないので、とても興味深く、そして勉強になりました。それぞれの国で昔話や民話が伝承されており、それぞの国で妖精など架空の生物が昔話や民話の中で存在しているというのが個人的にとても興味深いと思いました。昔話や民話に着目するだけでもそれぞの国の文化の違いや特色が見えてくるような気がしてとても面白いと思いました。また、私は国際理解展示会のイベントのお手伝いをさせていただきながら、各ブースにいらつしやつた高崎ユネスコ協会の方々からその国を訪れた際のエピソードを聞かせていただきました。どのお話をとても貴重な体験談であり、私自身の視野を広げるとてもためになるお話をでした。

2つ目は、多くの方々と関わ



中尾中美術部壁画アート(下絵)



中南米展示コーナー



学生ボランティア（左端が松本君）

り、皆で協力し一つのイベントを実施する楽しさです。当日は、高崎ユネスコ協会の方々、高崎経済大学ボランティアサークルACTのメンバー、高崎商科大学の学生など多くの方々が集まり、そして皆で協力し国際理解展示会を実施しました。各自がイベント成功に向けて自主的に動き、皆でコミュニケーションを取りながら準備やイベントの運営を行なっていきました。私は場の一体感を感じ、皆で協力して一つのイベントを実施する楽しさを感じることができました。私は国際理解展示会を通して多くの学びや気付きを得ることができました。このような素晴らしい経験をさせてくださった高崎ユネスコ協会の方々に感謝しております。本当にありがとうございました。

午前8時半「峠の湯」集合。前日の雨の予報を覆した快晴のもと、8時50分、安中総合学園高校和太鼓の演奏で開会行事の幕が開きました。

冒頭、岸群馬県ユ連会長、矢野薰安中碓水ユ協会長の挨拶に続き、安中市長、県議などご来賓の祝辞を頂きました。参加者は県内ユ協員約44名その他鉄道愛好者などを含め164名でした。

今回の研修は講師にNPO法人碓氷峠浪漫俱楽部代表萩原豊彦氏を迎え、「峠の湯」を出发し、1893年開通から昭和中期まで使われた信越本線の旧歩く間、鉄道施設の歴史・文化的価値、保護・保全について説明を受けました。途中、上原梅

度県ユ連研修視察in安中「アプトの道ウォーキング」（峠の湯から旧熊の平駅間（往復約3時間）が主催…鉄道遺産群を愛する会、NPO法人碓氷峠浪漫俱楽部。共催…群馬県ユネスコ連絡協議会、安中碓氷ユネスコ協会で開催されました。

令和5年6月4日(日)令和5年6月5日(月)度県ユ連研修視察in安中「アプトの道ウォーキング」（峠の湯から旧熊の平駅間（往復約3時間）が主催…鉄道遺産群を愛する会、NPO法人碓氷峠浪漫俱楽部。共催…群馬県ユネスコ連絡協議会、安中碓氷ユネスコ協会で開催されました。

弦氏の津軽三味線演奏や、芸術と技術が融合した美しいレンガのアーチ橋でわが国近代化遺産第一号に指定された国重要文化財「碓氷第三橋梁」（通称めがね橋）の上でシャボン玉大会があり等、盛りだくさんのイベントを取りながら準備やイベントの運営を行なっていきました。私は場の一体感を感じ、皆で協力して一つのイベントを実施する楽しさを感じることができました。私は国際理解展示会を通して多くの学びや気付きを得ることができました。このような素晴らしい経験をさせてくださった高崎ユネスコ協会の方々に感謝しております。本当にありがとうございました。

午前8時半「峠の湯」集合。前日の雨の予報を覆した快晴のもと、8時50分、安中総合学園高校和太鼓の演奏で開会行事の幕が開きました。

冒頭、岸群馬県ユ連会長、矢野薰安中碓水ユ協会長の挨拶に続き、安中市長、県議などご来賓の祝辞を頂きました。参加者は県内ユ協員約44名その他鉄道愛好者などを含め164名でした。

今回の研修は講師にNPO法人碓氷峠浪漫俱楽部代表萩原豊彦氏を迎え、「峠の湯」を出发し、1893年開通から昭和中期まで使われた信越本線の旧歩く間、鉄道施設の歴史・文化的価値、保護・保全について説明を受けました。途中、上原梅

弦氏の津軽三味線演奏や、芸術と技術が融合した美しいレンガのアーチ橋でわが国近代化遺産第一号に指定された国重要文化財「碓氷第三橋梁」（通称めがね橋）の上でシャボン玉大会があり等、盛りだくさんのイベントを取りながら準備やイベントの運営を行なっていきました。私は場の一体感を感じ、皆で協力して一つのイベントを実施する楽しさを感じることができました。私は国際理解展示会を通して多くの学びや気付きを得ることができました。このような素晴らしい経験をさせてくださった高崎ユネスコ協会の方々に感謝しております。本当にありがとうございました。

午前8時半「峠の湯」集合。前日の雨の予報を覆した快晴のもと、8時50分、安中総合学園高校和太鼓の演奏で開会行事の幕が開きました。

冒頭、岸群馬県ユ連会長、矢野薰安中碓水ユ協会長の挨拶に続き、安中市長、県議などご来賓の祝辞を頂きました。参加者は県内ユ協員約44名その他鉄道愛好者などを含め164名でした。

今回の研修は講師にNPO法人碓氷峠浪漫俱楽部代表萩原豊彦氏を迎え、「峠の湯」を出发し、1893年開通から昭和中期まで使われた信越本線の旧歩く間、鉄道施設の歴史・文化的価値、保護・保全について説明を受けました。途中、上原梅



安中総合学園高校和太鼓演奏

日ユ協連「関東ブロック・ユネスコ活動研究会in 東京」に参加して

児童画部長 徳井理恵子

9月3日、まだまだ暑い日差しの中、青山学院大学にて「Together for Future 国や会で沼田ユ協が、未来遺産「沼

に平和の砦を築こう」をテーマに2023年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in東京」が開会式のあいさつの中で、心に至っています。一人操りの人形芝居で、20年ほど前から市内小学校の総合学習で人形芝居の体験学習を実施し底辺を広げる一方、地域での公演活動も行っています。小学生から高齢者までの会員が、先人から受け継いだ伝統芸能のたすきを繋ぎ百年後の中でもたちに伝えていこうと活動しています。未来遺産にふさわしいと思いました。

閉会式では、青年活動報告もあり若い力に元気を吹き込んでもらい一層熱く活気に満ちた大会は成功裡に終了しました。



沼田ユ協による分科会発表

デザイナーコンペジュンコ氏の特別講演「ファンシジョンの持つエネルギー」でエネルギーをいただいた後、日本ユネスコ国内委員会委員である松本千恵子（高ユ協事務局次長）よりUNESCOや日本ユネスコ国内委員会の最近の動きなどの報告がありました。組織や活動についての解説により全体像をイメージでき、個々のユネスコ協会とのつながりを感じることができました。

須人形芝居あけぼの座の活動と沼田ユ協の連携」をスライドと実演を交え発表しました。江戸末期から伝わり中断を経て昭和50年にあけぼの座が発足し現在に至っています。一人操りの人形芝居で、20年ほど前から市内小学校の総合学習で人形芝居の体験学習を実施し底辺を広げる一方、地域での公演活動も行っています。小学生から高齢者までの会員が、先人から受け継いだ伝統芸能のたすきを繋ぎ百年後の中でもたちに伝えていこうと活動しています。未来遺産にふさわしいと思いました。

閉会式では、青年活動報告もあり若い力に元気を吹き込んでもらい一層熱く活気に満ちた大会は成功裡に終了しました。

沼田ユ協による分科会発表

